

化粧品産業競争力強化検討会 第1回

議事要旨

日時：令和7年12月8日（月）14:00～16:00

場所：経済産業省別館11階1111 各省庁共用会議室（対面・オンライン併催）

【議事要旨】

1. 検討会の設置

事務局より資料2「化粧品産業競争力強化検討会の設置について（案）」が説明され、修正なしで合意された。

2. 座長の選出

委員の互選により井原委員が座長として選出された。

3. 化粧品ビジョンの概要と課題

事務局より資料3「化粧品産業ビジョンの概要と課題」の説明があり、ビジョン策定から約5年が経過し、その間、国内外の市場における国産化粧品のシェア低下が進んでいること、ビジョンにおいて具体的に取り組むべきこととして示されていた6項目は、競争領域・協調領域共に具体的な進展があまり見られないこと、現状を踏まえれば、競争力強化にダイレクトに繋がると考えられる規制環境のイコールフットINGの確保と輸出拡大のための戦略策定や体制構築が最優先であると考えられること、このうち前者については自民党のJ-Beauty産業研究会において議論が進められていることから、本検討会では、後者について、Eコマース関係者等も含めより幅広い有識者の参画により集中的に議論を行い、特に民間での協調領域の取組を進めるべきであることが強調された。

4. 次回以後の議題について

重要であると考えられる議題や論点について各委員から説明があり、中堅・中小企業の競争力強化による底上げや、明確に定義され、品質も確保された日本ブランドの旗を立てること、市場毎の輸出戦略の策定、コンテンツの活用、競合他国の強さの分析、諸外国の規制情報や原料情報に係るデータベースの整備、販売チャネルにおけるオンラインとオフラインの組合せ、インバウンドを継続購入に結びつけること、輸出に係る団体の設立に向けた調整を始めていること等への言及がなされた。その後、事務局より4月の中間取りまとめまでの議題の案が提示され、国内市場への対応等他の議題については中間取りまとめ後に取り上げること、各回の議題の詳細を早めに委員に共有することを条件として概ね以下の通り進めることが了承された。

第2回：1月26日（月）

日本ブランドのイメージの共有、活用方法、及び維持・管理の方法

第3回：日程調整中

輸出拡大を集中的に進める地域又は国の特定、戦略の策定
海外規制への対応（安全性データの提供を含む）の方法

第4回：日程調整中

マーケティングのあり方（越境EC・SNSの活用、現地ディストリビューターとの連携、インバウンドの活用など）

輸出促進に係る業界団体のあり方

第5回：日程調整中

産業構造のあり方（分業体制の強化や支援サービス業の育成など）

中間取りまとめ骨子

第6回：4月中旬頃

中間取りまとめ